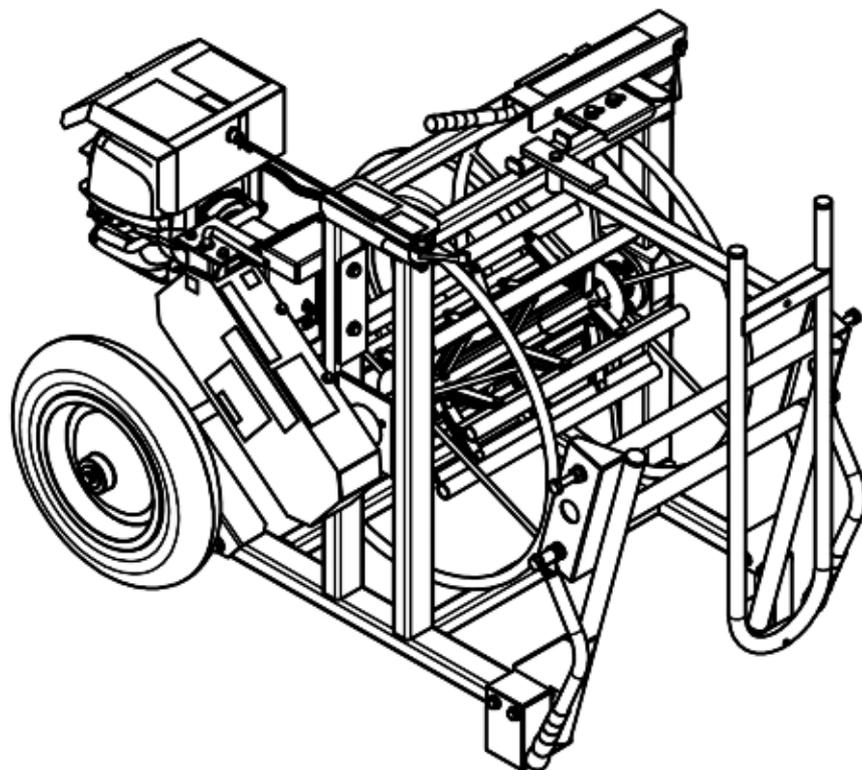


取扱説明書

マルチ巻取機 MHS350E



- ご使用前には必ずこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
- 取扱説明書に記載している指示内容を守ってください。誤った使い方をした場合、死亡事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- お読みになった後も必ず製品のそばに保管し、必要時には内容をご確認ください。

マルチ巻取機MHS350Eをお買い上げいただき、
ありがとうございます。

もくじ

○もくじ	1	○巻取り作業	
○重要なお知らせ		マルチシートの巻取り手順	12～14
使用目的・用途	2	作業後の手入れ	15
取扱説明書について	2	○日常の点検と整備	
お問い合わせ先	2	定期点検一覧	16
○安全に作業するために		各部ボルト・ナットの点検・増締め	17
警告表示	3	燃料漏れ・排気漏れの点検	17
警告ラベルの貼り付け位置	3	スロットルワイヤーの点検・調整	18
一般的な注意事項	4	気化器の点検・調整	18
運搬時の注意事項	5	冷却フィンの点検・清掃	19
○サービスと保証について	5	エアクリーナーの点検	19
○各部の名称	6	エアクリーナー清掃	20
○作業の準備		チェーンの点検・調整	21
燃料	7	チェーンの点検・注油	21
振分け装置	8	ウォームギヤオイルの点検・交換	22
○エンジンの始動と停止		出力軸の点検・交換	23
スロットルレバーの操作方法	9	点火プラグの点検・清掃	24
クラッチレバーの操作方法	9	燃料フィルター・燃料タンクの点検・清掃	24
エンジンの始動	9、10	ろ過部の点検・交換	25
エンジンの停止	10	○長期保管をする場合	26
		○故障と対策	27
		○仕様	28

重要なお知らせ

◇ 使用目的・用途

⚠ 警告

- この製品はマルチシートの巻取り用です。
マルチシートの巻取りにご使用ください。
- 使用目的以外には使用しないでください。
マルチシートの巻取り以外に使用しないでください。
事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- 製品の改造は絶対に行わないでください。
機械の破損により、重大な傷害を負う可能性があります。
- 初めて本製品を使用する方は、作業前に販売店等から使用方法の指導を受けてください。
使用方法を十分に習得してから使用しないと、重大な傷害を負う可能性があります。

◇ 取扱説明書について

⚠ 警告

- ご使用前には必ずこの取扱説明書を熟知するまでお読みください。
この取扱説明書には、製品の使用方法や取扱い上の注意事項について記載しています。
十分理解して正しく安全にご使用ください。
- 必ず製品のそばに保管し、いつでも内容を確認できるようにしてください。
- 本書を紛失・損傷した場合は、速やかに購入してください。
- 本製品を貸与または譲渡する場合は、
必ずこの取扱説明書を添えてお渡しください。
事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- 別冊のエンジン取扱説明書も併せてお読みください。



- 本書に使用しているイラストは分かりやすく簡略化しているため、ご購入いただいた製品とは内容およびイラストが異なる場合があります。
- 品質・性能向上あるいは安全上、予告なく変更を行うことがあります。その際は、本書の内容およびイラスト等の一部が、本製品と一致しないことがありますので、ご了承ください。

◇ お問い合わせ先

部品のご購入・修理・ご不明な点やお気付きの点がございましたら、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

安全に作業するために

◇ 警告表示

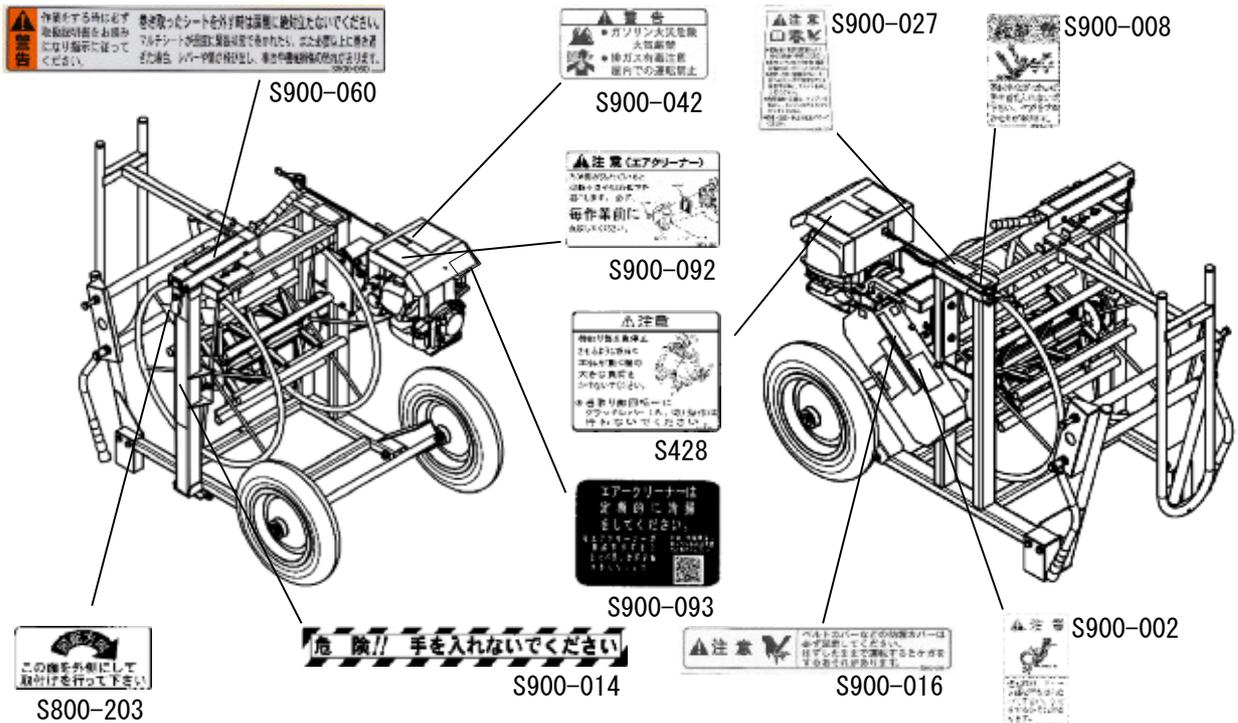
- 本製品を正しくお使いいただくにあたり、製品の使用方法および取扱上の注意事項について、特に重要な項目を下記のマークにて表示しています。下記のマークに続く文章は、その注意事項を守らないと発生しうる結果を表しています。

▲ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので必ずお守りください。

 危険	守らない場合、死亡事故や重大な傷害を負うことになるものを示します。
 警告	守らない場合、死亡事故や重大な傷害を負う可能性があるものを示します。
 注意	守らない場合、傷害または製品の破損に至るおそれがあるものを示します。
	図案上にこの記号が付いている場合は、その図案の示している行為をすべて禁止することを表しています。

◇ 警告ラベルの貼り付け位置

- 本体に警告ラベルを貼り付けております。重要な注意点を示していますので、ご使用前に確認していただき、必ず守ってください。
- 警告ラベルは常に汚れや破損のないように保ち、破損した場合は新しいラベルを購入していただき、貼り替えてください。



安全に作業するために

◇ 一般的な注意事項

⚠ 警告

- 定期的に点検・整備をしてください。

点検・整備のされていない製品を使用した場合、重大な傷害を負う可能性があります。

- 次のような人は使用しないでください。

- 過労・病気・薬物の影響・酒気帯び・その他の理由により正常な運転ができない人
- 18才未満の若年者
- 妊娠している人
- 取扱説明書の内容を理解していない人



- 排気ガスには十分に注意してください。

エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。

やむを得ず屋内で始動する場合やハウス内で始動

または作業する場合は十分に換気をしてください。

守らない場合、死亡事故や重大な傷害を負う可能性があります。

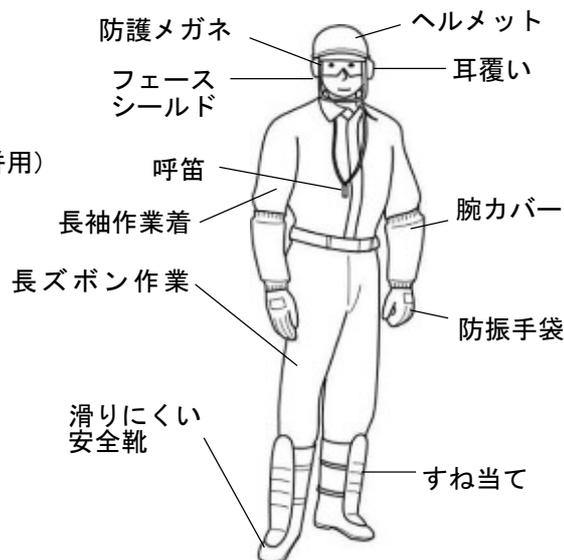


- 作業中に体調が悪くなった場合はすぐにエンジンを停止させ、作業を中止してください。

- 服装および装備は次のようなものを着用してください。

正しい服装で作業しないと重大な傷害を負う可能性があります。

- 身体に合った作業用長袖・長ズボン
袖口・裾口はまとめて腕カバーや作業長靴の中に入れ、
だぶつかないように注意してください。
- ヘルメット
- 防護メガネ・フェースシールド
- 安全靴またはこれに準ずる靴（すね当て併用）
- 防振手袋（丈夫で滑りにくいもの）
- 耳覆い・耳栓
- 合図用の呼笛



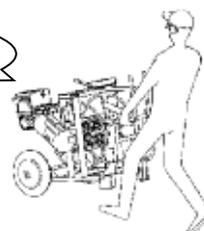
安全に作業するために

◇ 運搬時の注意事項

▲ 注意

- 運搬する時は必ずエンジンを停止させてください。
- オートバイや自転車の荷台に載せて運搬はしないでください。
自動車等で運搬する場合には、動かないようしっかり固定してください。
事故等の傷害を引き起こすおそれがあります。

エンジン停止



サービスと保証について

- 保証書は保証修理を受けられる際に必要となりますので、大切に保管してください。
- アフターサービスについて

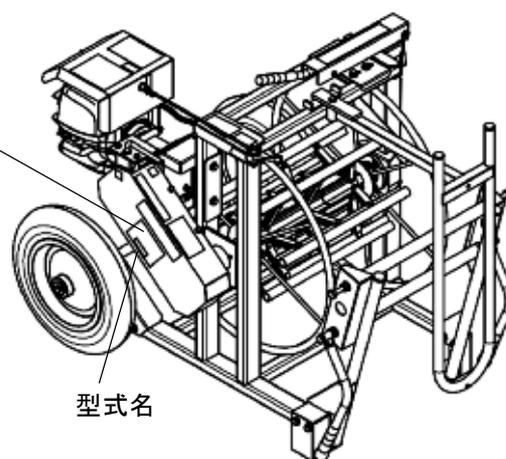
機械の調子が悪い時は27ページの『故障と対策』に従って点検・整備してください。
それでも直らない場合は、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

<連絡していただきたい内容>

- 型式名と機体番号
- 作業の内容
- 使用時間
- 不具合の内容をくわしく

機体番号（参考）

機体番号 S000000



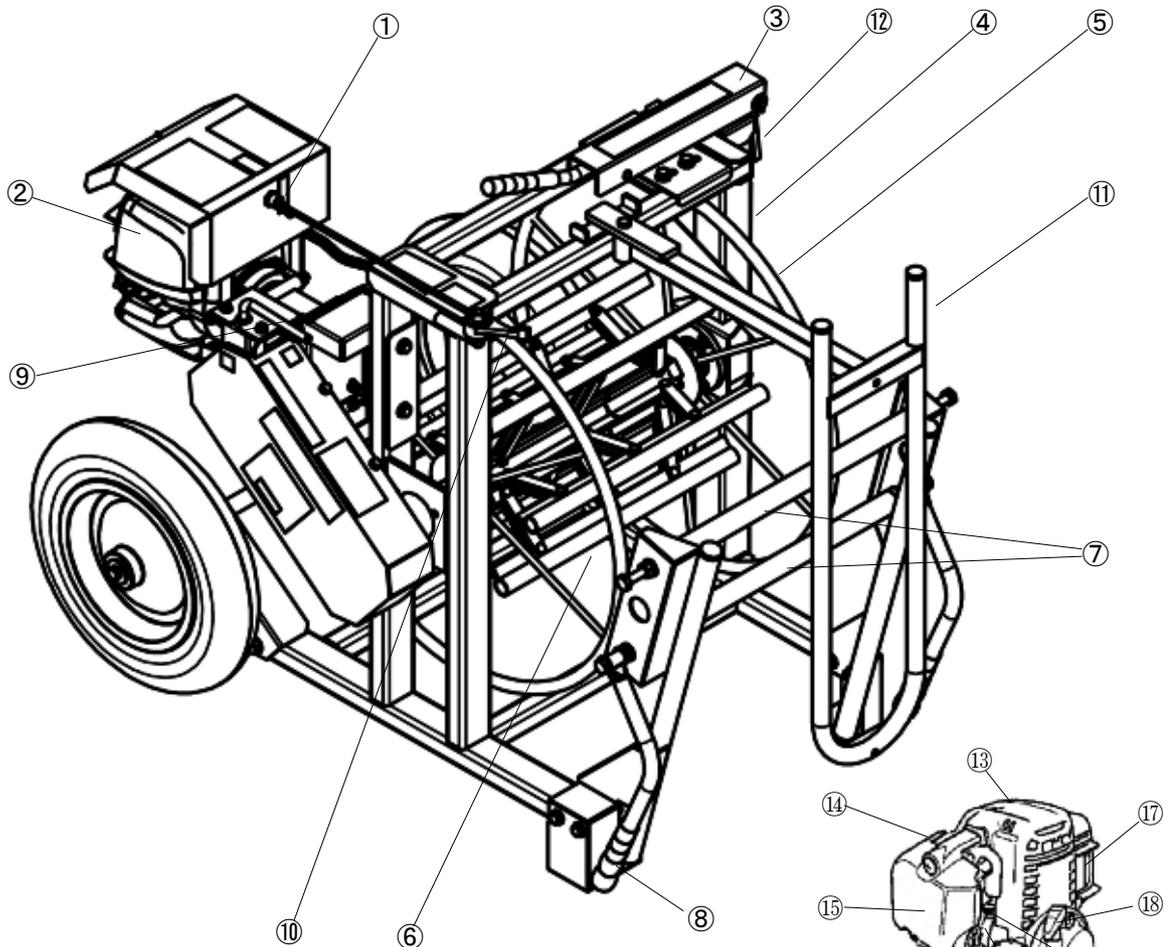
- 補修部品の供給年限について

この製品の補修部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後約8年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期をご相談させていただく場合もあります。

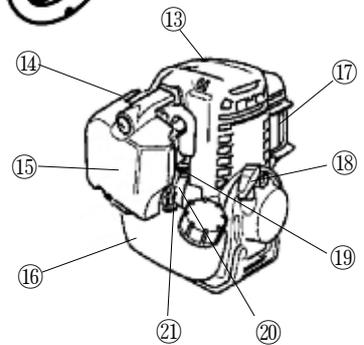
また供給年限を経過した部品についても、ご希望の場合は納期・価格についてご相談させていただきます。

各部の名称

- | | | | |
|--------------|-----------|---------|--------|
| ①ON-OFF スイッチ | ②エンジン | ③クランプ | ④とびら |
| ⑤サイドリング | ⑥巻取り部 | ⑦抵抗ローラー | ⑧取手 |
| ⑨クラッチレバー | ⑩スロットルレバー | ⑪振分けパイプ | ⑫ストッパー |



- | | | |
|----------|---------|-------------|
| ⑬トップカバー | ⑭気化器 | ⑮エアクリーナーカバー |
| ⑯燃料タンク | ⑰マフラー | ⑱始動グリップ |
| ⑲チョークレバー | ⑳燃料チューブ | ㉑プライミングポンプ |



●付属品



ボックスレンチ



六角レンチ 4 mm



六角レンチ 5 mm

作業の準備

◇ 燃料

⚠ 危険

- 火気を使用している付近で燃料の保管や給油、試運転をしないでください。
 - 燃料には「ガソリン」を使用してください。
 - 燃料の給油は必ずエンジンを停止し、冷えた状態で行ってください。
 - 燃料の給油は屋内や換気の悪いところではしないでください。
 - 燃料が古いとエンジントラブルの原因となりますので、新しい燃料を使用してください。
 - 給油中にタバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。
- 火災等の重大な事故や、火傷等の重大な傷害を負うことになります。

⚠ 警告

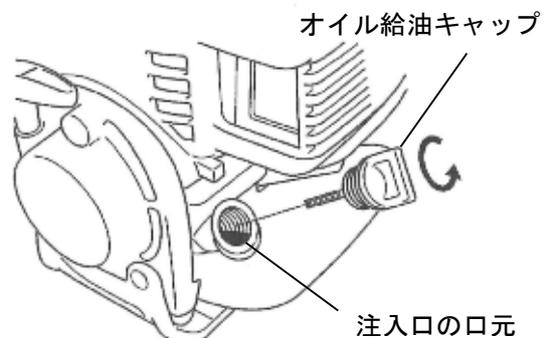
- 製品に火気を近づけないでください。
- 試運転・作業時のみ燃料を給油してご使用ください。
保管時は必ず燃料を抜いてください。
- こぼれた燃料は必ずきれいに拭き取ってください。
火災等の重大な事故や、火傷等の重大な傷害を負う可能性があります。

⚠ 注意

- エンジンオイルの量を確認してください。
このエンジンはオイル容量が少ないため、オイル量の点検は頻繁に実施してください。
不足するとエンジンが焼付くおそれがあります。
- エンジンオイルは必ず4サイクルエンジン専用オイルを使用してください。
- ガソリンに2サイクル専用オイルを混合した混合油を使用しないでください。

- エンジンオイルの点検、補給

エンジンを水平にしてオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあることを確認してください。不足している場合は新しいオイルを口元まで補給してください。
補給後、エンジンオイル給油キャップを取付けます。確実に締め付けてください。



《推奨オイル》 SAE 10W-30 (API分類SE・SF・SG級相当品)

作業の準備

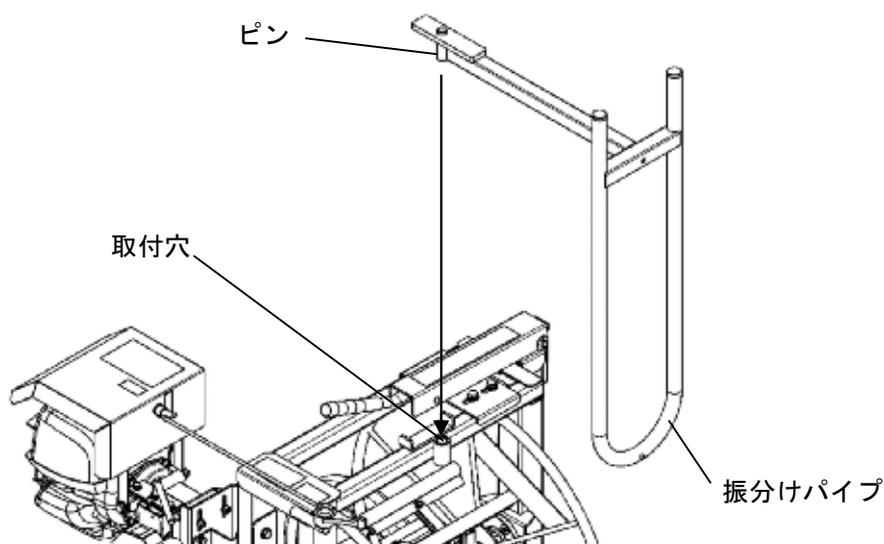
◇ 振分け装置

▲ 注意

- 必ずエンジンを始動する前に装着してください
- 必ずエンジンを始動する前に動作を確認してください。
- 振分けパイプが不要な場合は邪魔にならない位置へ片付けてください。

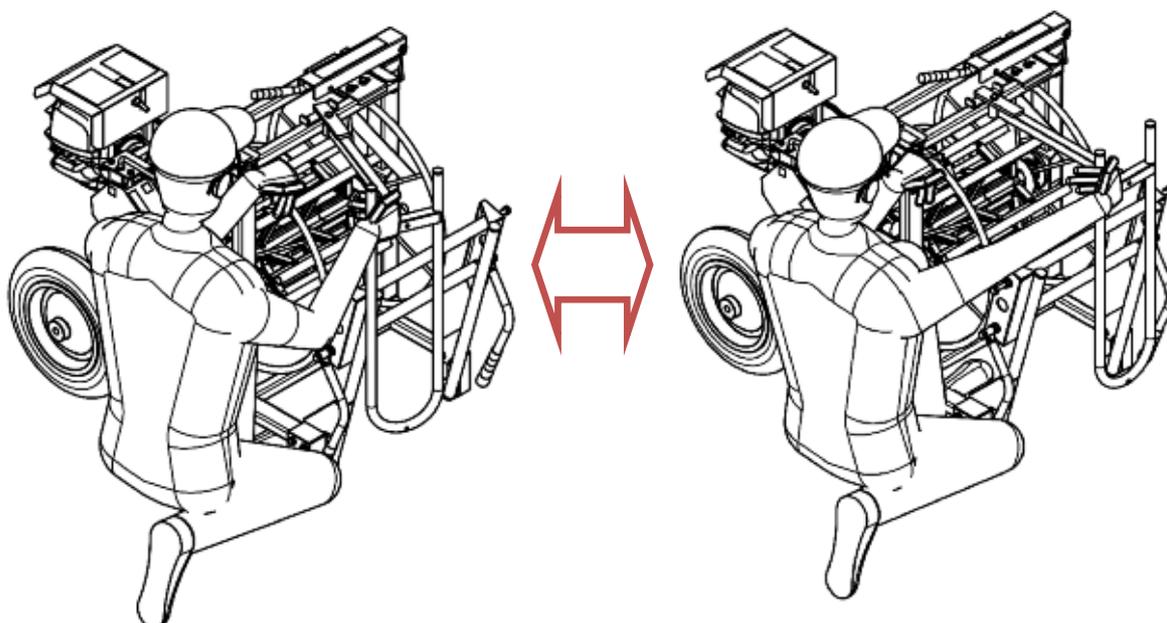
● 振分けパイプの装着

振分けパイプを使用する場合、ピンを取付穴に確実に差込んでください。



● 振分けパイプの確認

振分けパイプを左右に振って動きに異常がないか確認してください。



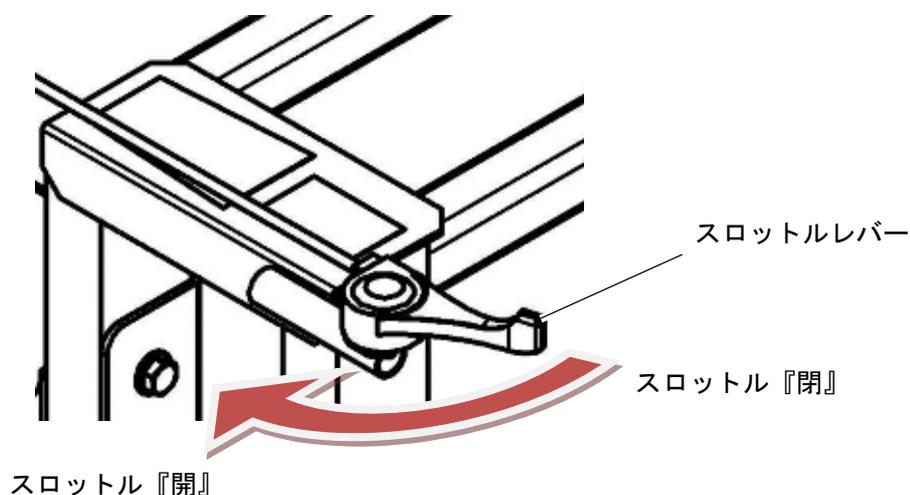
エンジンの始動と停止

◇ スロットルレバーの操作方法

⚠ 警告

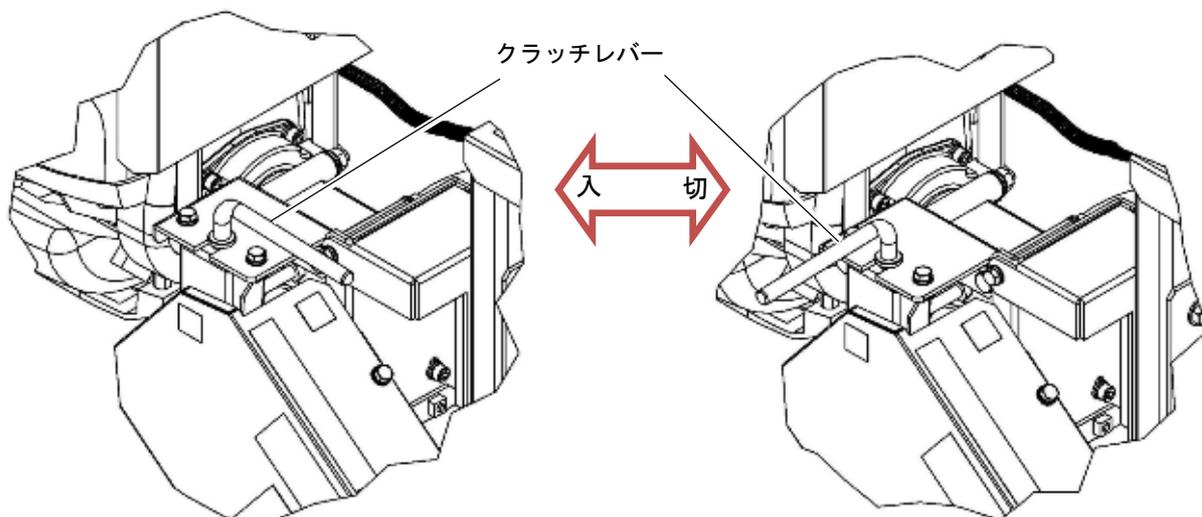
- 必ずエンジン始動前に動作確認をしてください。
- 正しく機能しない場合は絶対に使用せず、販売店へ点検・修理を依頼してください。
巻取り部が止まらない等、思わぬ事故により重大な傷害を負う可能性があります。

1. スロットルレバーを手前に引くとスロットルは『開』になります。
2. 元の位置に戻すとスロットルが『閉』になります。



◇ クラッチレバーの操作方法

1. クラッチレバーを手前に引くと『切』になります。
2. 元の位置に戻すとクラッチが『入』になります。



エンジンの始動と停止

◇ エンジンの始動

▲ 危険

- エンジン始動時および運転時は絶対に巻取り部に手や足を近づけないでください。
事故や重大な傷害を負うことになります。

▲ 警告

- 屋内等換気の悪いところでは始動・作業をしないでください。
一酸化炭素中毒を引き起こすおそれがあります。
- 水平で安定した場所で始動してください。
- エンジン始動前に以下のことを確認してください。
 - 各部のネジ・ボルトに緩みがないこと。
 - 燃料漏れがないこと。
 - 燃物（ガソリン、揮発性薬品類等）が近くにないこと。
思わぬ事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- 始動時にスロットルレバーに触らないでください。
始動直後に巻取り部が回転し始め、思わぬ事故や重大な傷害を負う可能性があります。
- エンジンを始動させたら以下のことを確認してください。
 - スロットル『閉』で巻取り部が回転していないか確認してください。
 - ON-OFF スイッチが機能するか確認をしてください。
 - 振動・音等異常がないか確認してください。
異常を感じた場合にはすぐにエンジンを停止させ、点検・修理してください。
- 運転中および停止直後にはトップカバーやマフラー等の高温部には触れないでください。
火傷、火災等の重大な事故や傷害を負う可能性があります。
- 運転中に点火プラグキャップ等の通電部には触れないでください。
感電により重大な傷害を負う可能性があります。



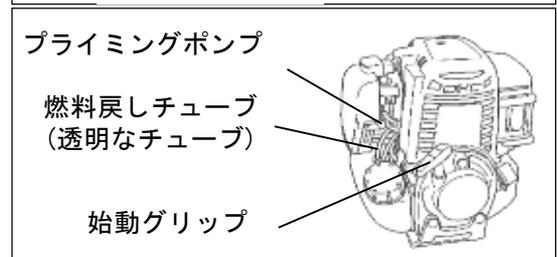
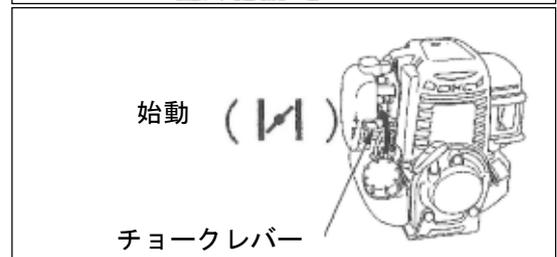
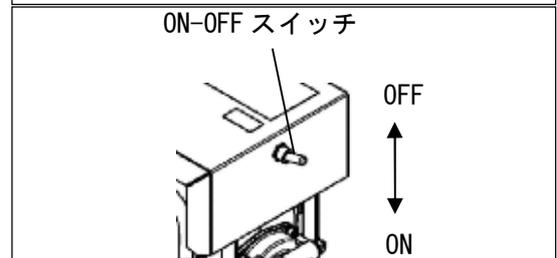
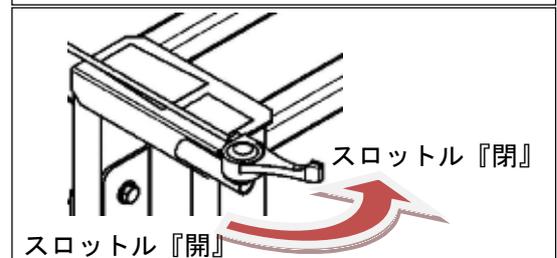
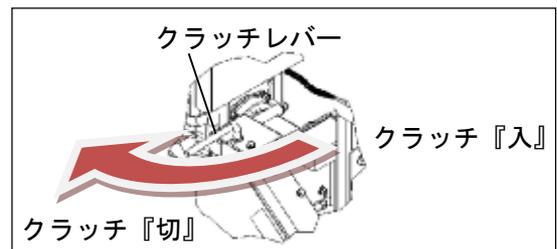
▲ 注意

- エンジン故障の原因になりますので、以下のことを守ってください。
 - エンジン始動時に始動グリップを全部引ききらないでください。
 - 始動グリップを引いた後急激に離さないでください。
 - エンジン始動直後は急激に回転を上げないでください。
 - 試運転時および作業時に、不必要な無負荷運転・高速回転での使用は避けてください。

エンジンの始動と停止

◇ エンジンの始動

1. クラッチレバーを『切』にします。
2. スロットルレバーを『閉』にします。
3. ON-OFFスイッチを『ON』にします。
4. チョークレバーを『始動』位置にします。
(エンジンが暖かい場合は『運転』位置にします。)
5. プライミングポンプを繰り返し押ししてください。
透明チューブに燃料が通り、気泡がなくなるまで
押ししてください。
6. 巻取り部が障害物に触れていないことを確認し
始動グリップを数回引き、始動してください。
7. 爆発音がしても始動しない場合はチョークレバーを
『運転』位置にして、再度始動グリップを
引いてください。
8. 始動後、エンジンの調子を見ながら徐々に
チョークレバーを『運転』位置にします。
9. 十分な暖機運転を行ったうえでスロットル操作を
してください。



別冊のエンジン取扱説明書も併せてお読みください。

◇ エンジンの停止

▲ 警告

- 巻取り部が完全に停止したことを確認してください。
重大な傷害を負う可能性があります。

1. スロットルレバーを『閉』にします。
2. ON-OFFスイッチを『OFF』にします。

巻取り作業

◇ マルチシートの巻取り手順

⚠ 警告

- 作業中は回転部分に手や足を近づけないでください。
- 巻き取ったマルチシートを外す時はとびらの前に絶対立たないでください。
マルチシートが過度に緊張状態で巻かれたり、また必要以上に巻き過ぎた場合、クランプやとびらが飛び出し、重大な障害を負う可能性や機械破損の可能性があります。
- 作業中に機械の異常を感じた場合は、ただちにエンジンを停止させてください。
確実にエンジン・巻取り部を停止させてから、点検・修理を行ってください。
重大な傷害を負う可能性があります。

⚠ 注意

- 作業者以外の人は、機械に近づかないよう注意し作業をしてください。
- マルチシートの取り出し作業は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 巻取り部を急停止させるような負荷や本体が動く程の大きな負荷をかけないでください。
傷害または製品の破損に至るおそれがあります。
- 巻取り部回転中や、巻取り部のマルチシートが引っかかった時（図 6）、マルチシートが過度な緊張状態の時に、無理なクラッチ操作は行わないでください。
傷害または製品の破損に至るおそれがあります。
- 作業に応じてエンジンの回転数を調節してください。
エンジンの回転数が高すぎると、故障の原因や耐久性を損なう場合があります。
エンジンの回転数が低すぎると、クラッチの磨耗を早めたりします。

1. エンジン停止、クラッチレバー『切』を確認してください。
2. 畝に掛けてあるマルチシートは、あらかじめ手で剥いてください。
3. 本機の抵抗ローラー部にマルチシートを通してください。（図 1、2 参照）
4. 作業の必要に応じて振分けパイプを取付けてください。（図 3 参照）



図 1、抵抗を掛ける



図 2、抵抗を掛けない



図 3、振分け

注) 図 1、の通し方で作業する場合は、マルチシートの幅、種類、等により、巻取りトルクが低下、エンジンが停止する場合があります。その場合 図 2、の通し方で作業をしてください。

巻取り作業



図 4

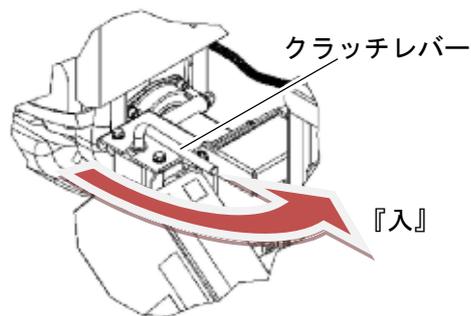


図 5

5. サイドリングを廻し、マルチシートを巻取り部に巻き付けてください。(図 4 参照)
6. エンジン始動 (P 11 参照。)
7. クラッチレバーを、『入』にします。(図 5 参照)
8. スロットルレバーを操作して巻取り作業を開始します。エンジン回転数を徐々に上げると巻取り部が回転し、マルチシートを巻き取っていきます。



図 6

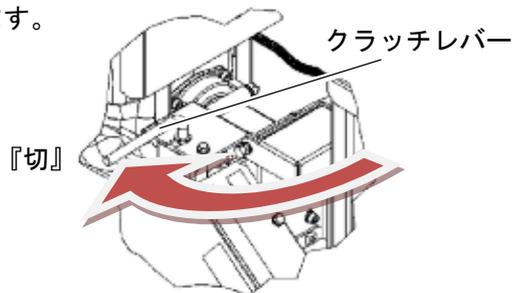


図 7

注) 巻取り部のマルチシートが引っかかった時 (図 6)、マルチシートが過度な緊張状態の時に無理なクラッチ操作をした場合、傷害を負う可能性や機械破損のおそれがあります。巻取り部からマルチシートの引っかかりや緊張状態をとりのぞいてください。

9. 巻取り作業が終了しだい、スロットルレバーを『閉』、クラッチレバーを『切』(図 7 参照)、ON-OFF スイッチを『OFF』にしてエンジンを停止します。
10. クランプを持ち上げるととびらが倒れます。(図 8、9 参照)

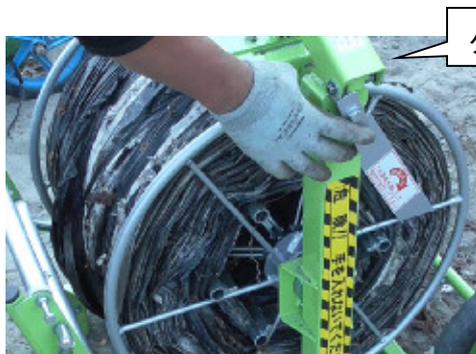


図 8

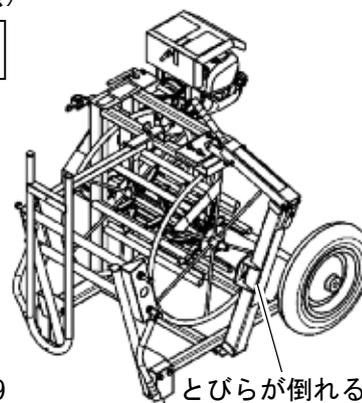


図 9

注) マルチシートが過度に緊張状態で巻かれたり、また必要以上に巻き過ぎた場合、クランプやとびらが飛び出し、重大な傷害を負う可能性や機械破損のおそれがあります。

巻取り作業

11. ストッパーを90°回してクランプをとびらのツメから外します。(図10、11参照)

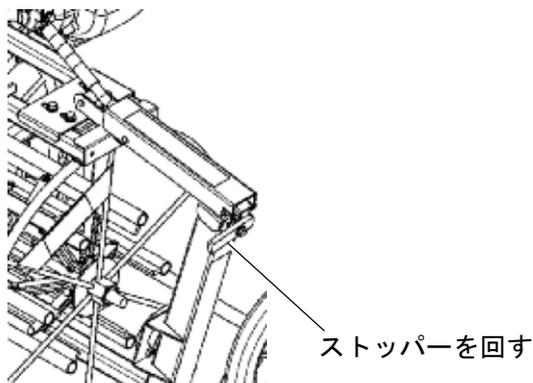


図10

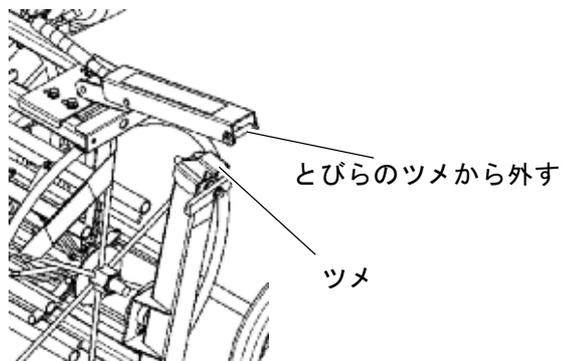


図11

12. とびらを倒して、サイドリングを外します。(図12参照)

13. マルチシートを取り出します。(図13参照)

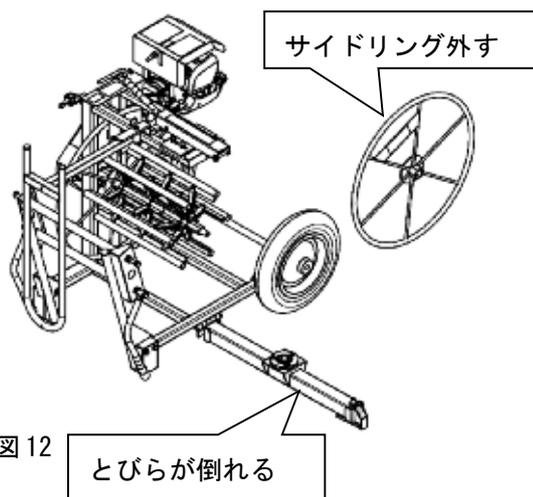


図12



図13、マルチシート取出し

14. 収縮した巻取り部をもとの位置に、手で押し込みサイドリングを取り付け、とびらを起しクランプを掛け、もとの状態に戻します。(図14参照)

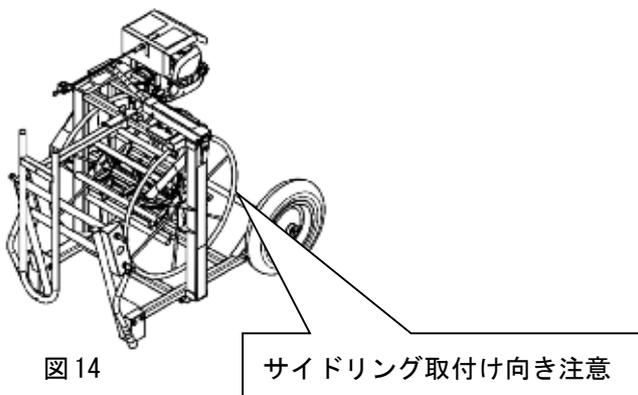


図14

作業を中断する場合は必ず手順に従ってエンジンを停止してください。

巻取り作業

◇ 作業後の手入れ

▲ 警告

- 屋内等換気の悪いところでは始動・作業をしないでください。
一酸化炭素中毒を引き起こすおそれがあります。
- 運転中および停止直後にはトップカバーやマフラー等の高温部には触れないでください。
火傷、火災等の重大な事故や傷害を負う可能性があります。

● 各部の掃除のしかた

振分けパイプ、巻取り部及び抵抗ローラー部についた土砂、草類は、できるだけ早めに取り除いてください。(図 15 参照)

水洗いは振分けパイプ、巻取り部、抵抗ローラー部にかぎり行い、他には水をかけないようにしてください。水がかかった場合は、ウエス等で拭き取ってください。

水洗い後は、スプレー式潤滑剤等で注油してください。

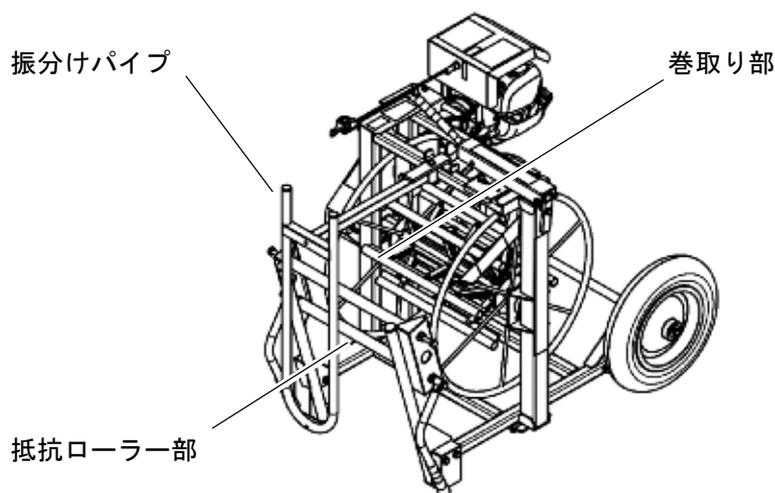


図 15

トップカバー内側にある冷却フィンの土ぼこり等はこまめに掃除をしてください。(図 16 参照)
オーバーヒート等の原因になります。

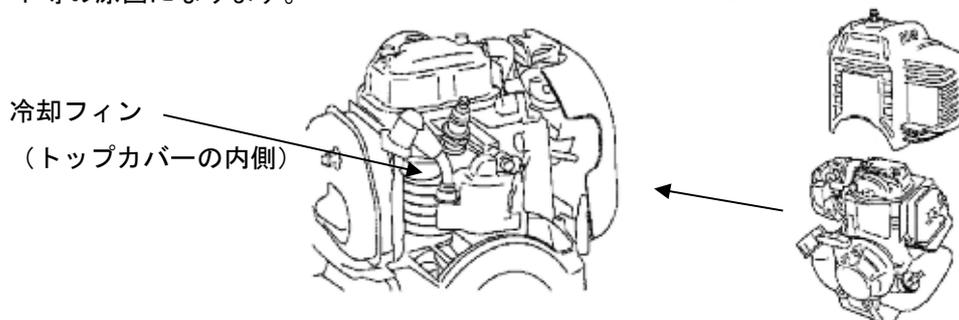


図 16

日常の点検と整備

⚠ 注意

- 部品は必ず純正部品をご使用ください。
- 点検・整備を行う時は、機体を水平な場所に置き、エンジンを止めて行ってください。またエンジンは完全に冷えた状態で行ってください。
- 本製品をより長く安全にお使いいただくために、定期的な点検と整備を行ってください。
- 点検・整備の方法が分からない場合は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

◇ 定期点検一覧

点検・整備項目	毎作業 前	25時間 毎	50時間 毎	100時間 毎	参照
各部ボルト・ナットの点検・増締め	○				P17
燃料漏れ・排気漏れの点検	○				P17
スロットルワイヤーの点検・調整	○				P18
気化器の点検・調整	○				P18
冷却フィンの点検・清掃	○				P19
エアクリーナーの点検	○				P19
エアクリーナーの清掃		○			P20
チェーンの点検・調整		○			P21
チェーンの点検・注油			○		P21
ウォームギヤオイルの点検・交換			○		P22
出力軸の点検・注油			○		P23
燃料フィルター・燃料タンクの点検・清掃				○	P24
点火プラグの点検・清掃				○	P24
ろ過部の交換				○	P25
点火プラグの交換		300時間毎			-
燃料チューブ・オイルチューブの交換		2年毎			-

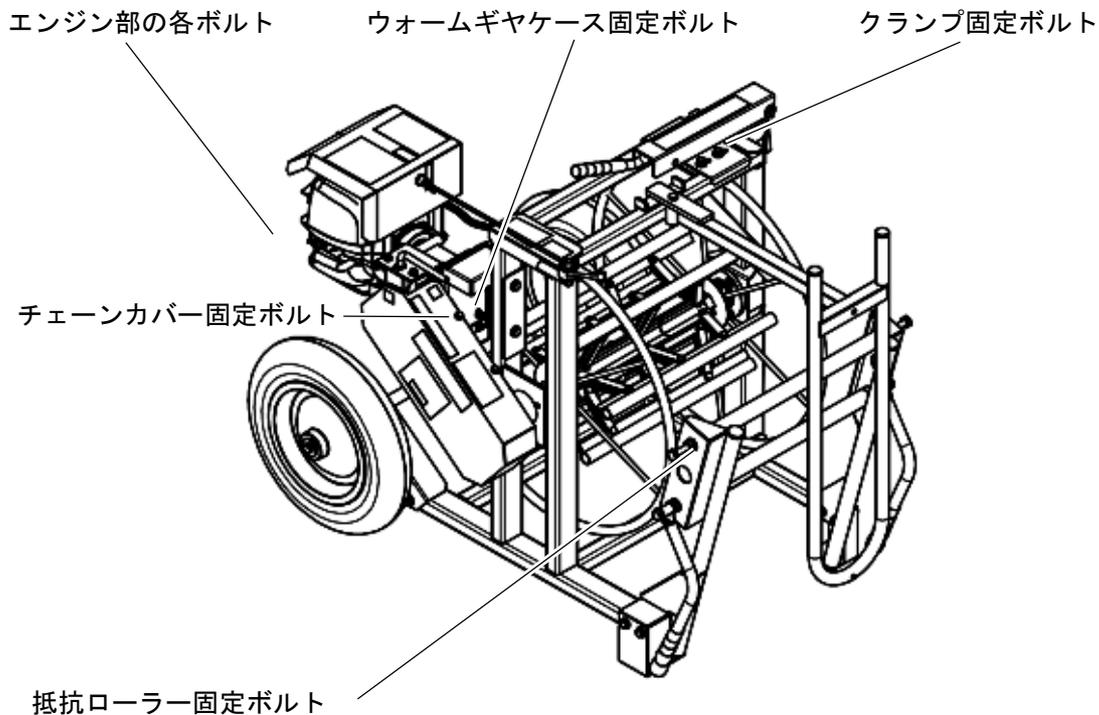
エンジン部の調整・交換は高度な技術や工具等が必要ですので販売店に依頼してください。

エンジン部の点検は別冊のエンジン取扱説明書も併せてお読みください。

日常の点検と整備

◇ 各部ボルト・ナットの点検・増締め（毎作業前）

- エンジン部は振動によりネジがゆるみやすいため、十分に点検してください。

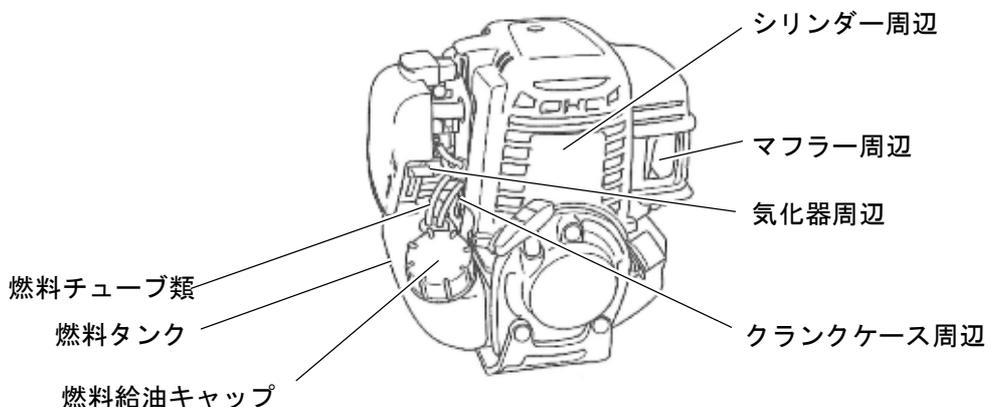


◇ 燃料漏れ・排気漏れの点検（毎作業前）

⚠ 警告

- エンジンの各合わせ面から燃料漏れ・排ガス漏れが生じた場合は、即座に使用を中止して販売店にて修理をしてください。また、修理が完了するまで使用しないでください。火災や火傷を負う可能性があります。

- 代表的な燃料漏れ・排気漏れの確認箇所



日常の点検と整備

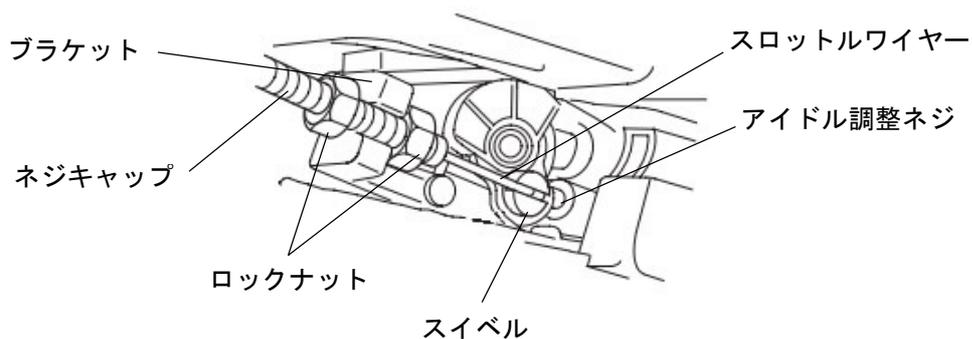
◇ スロットルワイヤーの点検・調整（毎作業前）

▲ 注意

● 作業前に必ずスロットルワイヤーの調整を行ってください。

調整せずに使用した場合、レバーを戻しても巻取り部が止まらない場合があります。また、スロットルワイヤーがスイベルから外れて、思わぬ回転上昇となることがあります。

- スロットルワイヤーがスムーズに動くことを確認してください。
スムーズでない場合は清掃・給油・調整等を行い、必要な場合は交換してください。
- スロットルワイヤーの遊びを下記の手順で調整してください。
 1. スロットルレバーを『閉』にしてください。
 2. ロックナットを緩め、ネジキャップを回してスロットルワイヤーの遊びが0.5～1.0mmになるように調整し、ロックナットを締めて固定します。
 3. スイベル部がアイドル調整ネジに当たっていることを確認してください。



◇ 気化器の点検・調整（毎作業前）

▲ 注意

● 気化器はアイドル調整ネジ以外を調整しないでください。

気化器は工場出荷時に最適調整してあります。ご自分での調整はアイドル調整ネジのみとし、その他の調整は販売店にご相談ください。むやみに調整をするとエンジン不調の原因となります。

- 下記要領でアイドル回転数を適正に調整してください。
スロットルレバーを『閉』にして、エンジンを始動させます。
 - 始動後、巻取り部が回転している場合
アイドル調整ネジを左へ回し、アイドル回転数を下げてください。
 - エンジンが始動しない、または始動後にすぐ止まる場合
アイドル調整ネジを右へ回し、アイドル回転数を上げてください。
- 調整後もエンジンの調子が悪い場合は、販売店へ修理を依頼してください。

日常の点検と整備

◇ 冷却フィンの点検・清掃（毎作業前）

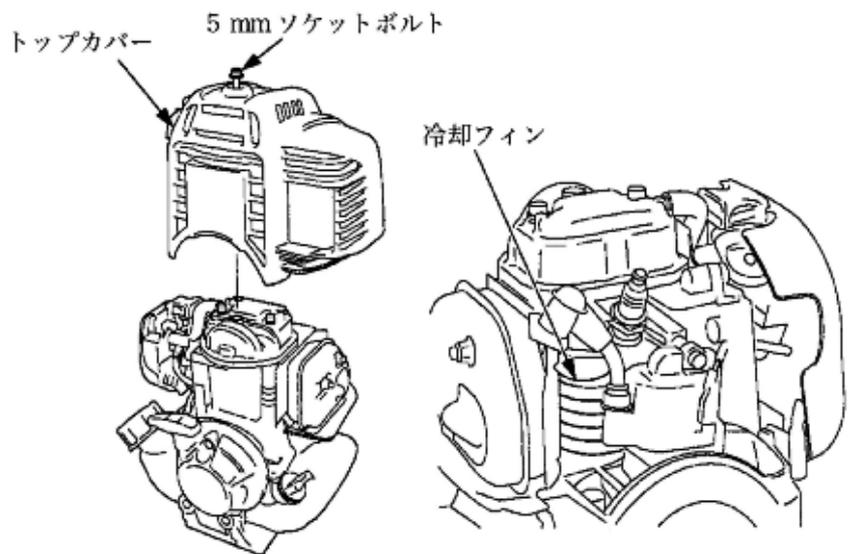
▲ 注意

- 冷却フィンが詰まった場合はすぐに取り除いてください。

冷却フィンが詰まったまま作業をするとエンジンの焼付きの原因となります。

- 冷却フィンの詰まりによる焼付き等の不具合は保証の対象外になります。

1. 六角レンチで5 mm ソケットボルトを十分にゆるめ、トップカバーを取外します。
2. 冷却フィンを目視で点検し、草、芝、泥等による詰まりがないことを確認します。詰まりがある場合は清掃してください。



◇ エアクリーナーの点検（毎作業前）

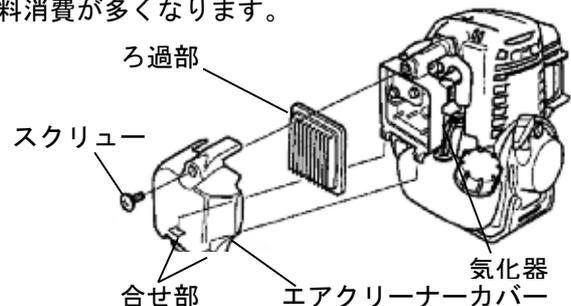
▲ 注意

- エアクリーナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。

エンジンが早く摩耗する原因となります。

- エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなります。

エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部（紙製）を取外します。エアクリーナーカバーの取外しはスクリューを外した後、下部の合せ部を離して行います。



日常の点検と整備

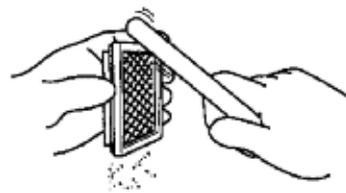
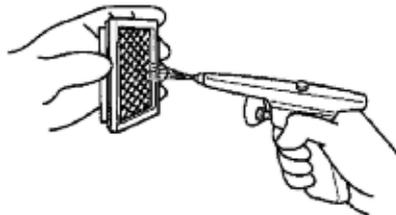
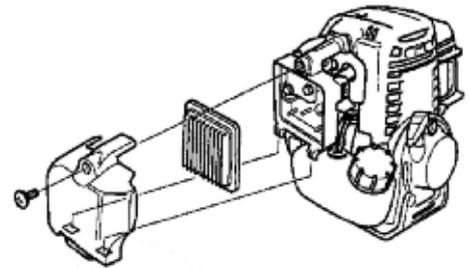
◇ エアクリーナーの清掃（25時間毎）

▲ 注意

●エアクリーナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。

エンジンは早く摩耗する原因となります。

1. エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部（紙製）を取外します。
エアクリーナーカバーの取外しは、スクリューを外した後、下部の合せ部を離して行います。
2. ろ過部（紙製）の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。
圧縮空気は 200kPa (2.0kgf/cm²) 以下で吹きつけてください。



3. エアクリーナーカバーおよびケースの内側に付着している汚れをウエス等で取り除きます。
この時気化器にゴミ等が入らないように注意してください。
4. ろ過部、エアクリーナーカバーを取付けます。
エアクリーナーカバーの取付けは、下部の2か所の合せ部を組付け後、スクリューを確実に締付けて行います。

日常の点検と整備

◇ チェーンの点検・調整（25時間毎）

⚠ 警告

- 交換・点検・整備をする時は必ずエンジンを確実に停止させ、回転部が完全に止まってから行ってください。

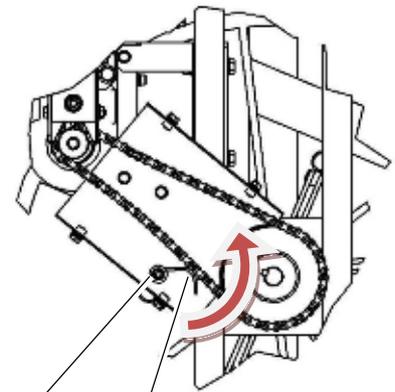
⚠ 注意

- 取り外したカバー類は、必ず取付けてください。

外したままで作業すると衣類が巻き込まれたり等で、ケガをするおそれがあります。

- 本機は巻取り部への動力伝達にチェーンを使用しており、チェーンは作業開始から約30時間程度で初期伸びがおこります。また定期的に（25時間毎）チェーンの調整をしてください。

1. チェーンカバー固定ボルトを外し、チェーンカバーを外してください。
2. チェーンのたるみを確認して、HCテンションアーム01の固定ナットをゆるめます。
3. HCテンションアーム01を押し上げて、チェーンの張りを確認したら、固定ナットを締め込んでください。
4. チェーンの張りを確認したらチェーンカバーを取付け、チェーンカバー固定ボルトで固定してください。



固定ナット
HCテンションアーム01

◇ チェーンの点検・注油（50時間毎）

⚠ 注意

- 取り外したカバー類は、必ず取付けてください。

外したままで作業すると衣類が巻き込まれたり等で、ケガをするおそれがあります。

1. チェーンカバー固定ボルトを外し、チェーンカバーを外してください。
2. チェーンの張りを確認したら、チェーングリスを塗布してください。
3. チェーンカバーを取付け、チェーンカバー固定ボルトで固定してください。

日常の点検と整備

◇ ウォームギヤオイルの点検・交換（50時間毎）

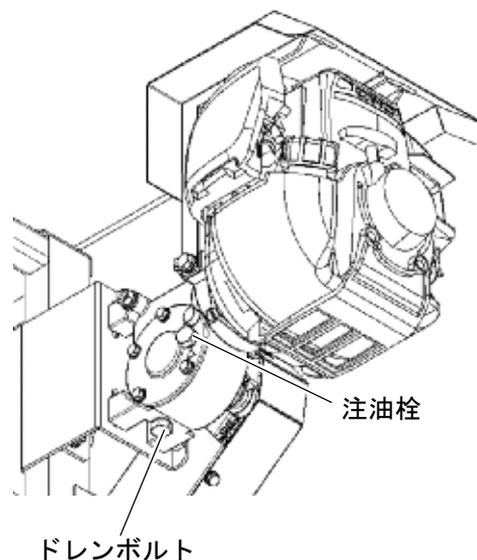
⚠ 警告

- 交換・点検・整備をする時は必ずエンジンを確実に停止させ、回転部が完全に止まってから行ってください。

⚠ 注意

- 取り外したカバー類は、必ず取付けてください。
外したままで作業すると衣類が巻き込まれたり等で、ケガをするおそれがあります。

- 50時間毎にウォームギヤオイルを交換してください。
 1. ウォームギヤケース下部のドレンボルトを外してください。
 2. オイルが全て抜けたのを確認してから、ドレンボルトを締め込んでください。
 3. 注油栓を外して指定のウォームギヤオイルを90cc注油してください。（下記指定部品）
 4. 注油栓を締め込んで各部からオイルの漏れがないか確認してください。



指定部品 ウォームギヤオイル
ハイタックエコノギヤオイル #460又は#320

日常の点検と整備

◇ 出力軸の点検・注油（50時間毎）

⚠ 警告

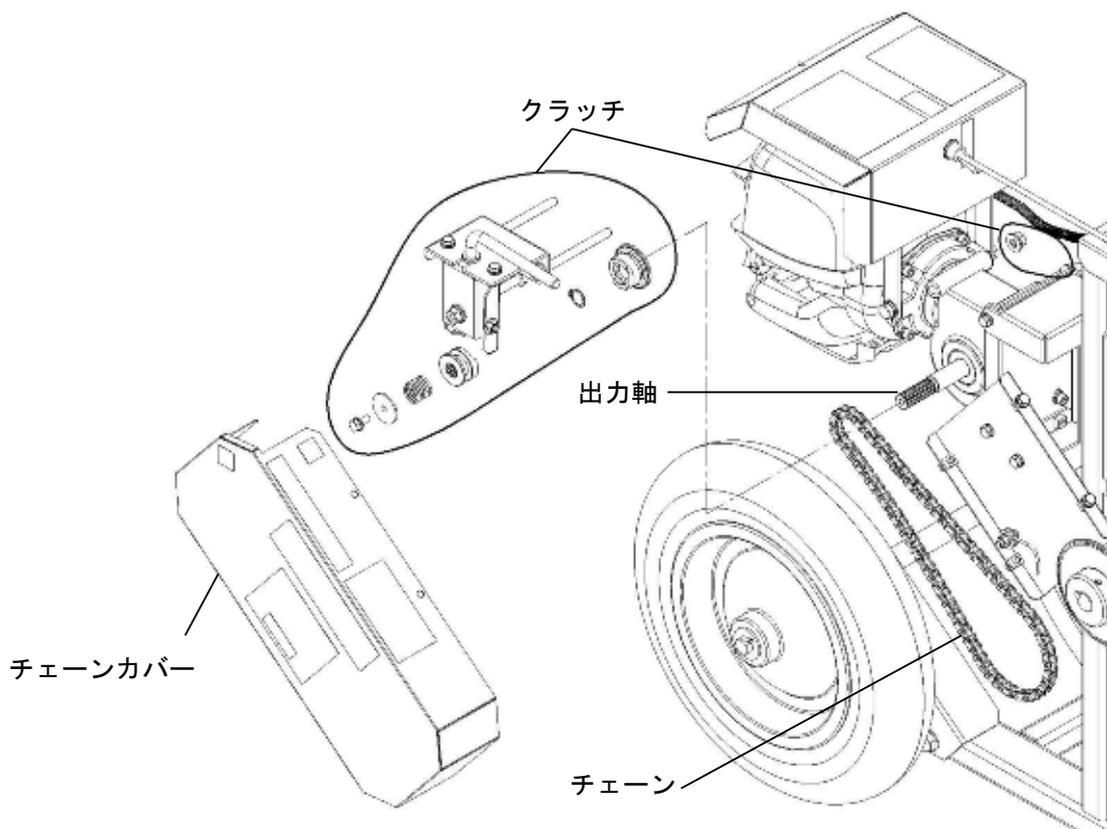
- 交換・点検・整備をする時は必ずエンジンを確実に停止させ、回転部が完全に止まってから行ってください。

⚠ 注意

- 取り外したカバー類は、必ず取付けてください。

外したままで作業すると衣類が巻き込まれたり等で、ケガをするおそれがあります。

- 50時間毎に出力軸を点検・注油してください。
 1. チェーンカバーのボルトを外して、チェーンカバーを外してください。
 2. ジョイントリンクを外して、チェーンを外してください。
 3. クラッチのボルト・ストップリングを外して、クラッチを外してください。
 4. 出力軸にグリスを塗布してください。
 5. 各部を上記逆手順で取付けてください。
 6. クラッチレバーを操作して、クラッチ断続ができていないか確認してください。



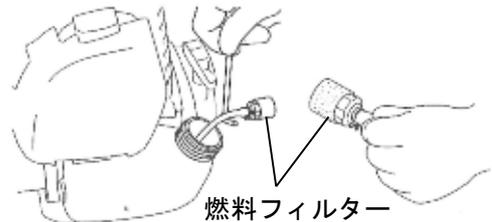
日常の点検と整備

◇ 燃料フィルター・燃料タンクの点検・清掃（100時間毎）

▲ 注意

- 燃料フィルターが目詰まりするとエンジン不調の原因となります。

1. 燃料タンクから燃料フィルターを取り出します。
2. きれいな白灯油で洗浄します。
3. 汚れがひどい場合は燃料フィルターを交換のうえ、燃料タンク内の洗浄もしてください。

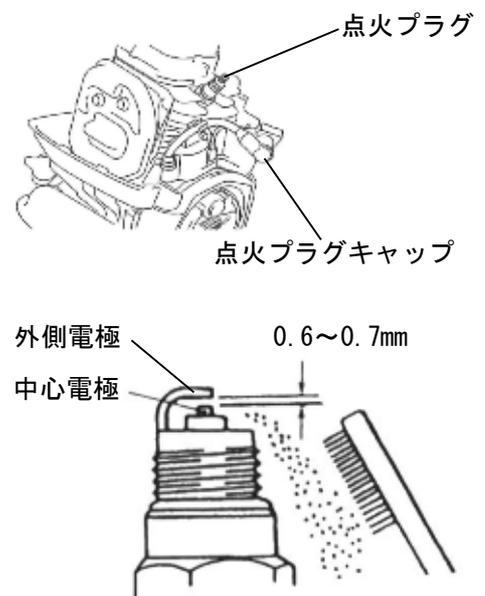


◇ 点火プラグの点検・清掃（100時間毎）

▲ 注意

- 指定以外の点火プラグを使用しないでください。
エンジン故障の原因となります。
- 点火プラグキャップは確実にセットしてください。
エンジン不調の原因となります。

1. 点火プラグキャップを外し、付属のボックスレンチで点火プラグを外します。
2. 電極部にカーボン等が堆積している場合はワイヤーブラシ等で清掃してください。
3. 点火プラグの電極すき間は0.6mm～0.7mm（はがき3枚分程度）が適正です。広すぎたり、狭すぎたりする時は調整してください。
4. 中心電極や外側電極の消耗がひどい場合は点火プラグを交換してください。
5. 取り付けはじめに指で点火プラグを軽くねじ込み、次にプラグレンチ、プラグレンチハンドルで確実に締め付けます。
6. 点火プラグキャップを確実に取り付けます。



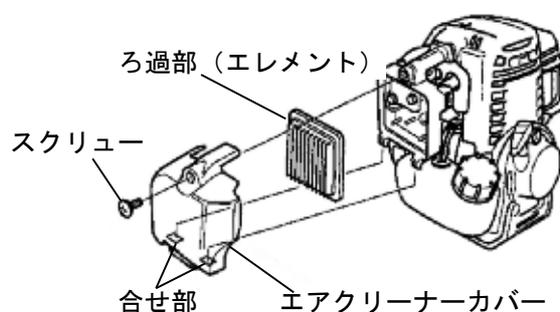
指定部品 点火プラグ CM5H (NGK)・CMR5H (NGK)

日常の点検と整備

◇ ろ過部の交換（100時間毎）

⚠ 注意

- ろ過部が目詰まりするとエンジン不調の原因となります。
- ろ過部を外した状態でエンジンを運転しないでください。
エンジンが早く摩耗する原因となります。
- 指定以外のろ過部を使用しないでください。
エンジン故障の原因となります。（下記指定部品）
- ろ過部は確実にセットしてください。
エンジン不調の原因となります。



指定部品 エレメント・エアークリーナー 17211-Z3F-000

長期保管をする場合

⚠ 注意

- 燃料や火気の近くに保管しないでください。
- カバー等を機械にかける時は加熱部分が完全に冷えてから行ってください。
熱いうちにカバー等をかけると火災等の原因となります。
- 燃料を入れたまま長期間放置しないでください。
燃料の劣化により気化器や燃料フィルター等の詰まりの原因となります。

- 長期間使用しない時は次の要領で整備してください。
- 本体
 1. 各部についた草の汁・泥等をよく落としてください。
 2. 清掃後、金属部分には油分を塗布し発錆を防止します。
 3. 各部を点検し、損傷箇所は修理し、消耗品は交換します。
- エンジン
 1. 始動グリップを引っ張って重く感じる位置で止めます。
 2. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
 3. 気化器や燃料チューブ内の燃料は気化器のプライミングポンプを押して抜き取ります。
 4. エンジンオイルを交換します。
 5. ろ過部を清掃します。
 6. ビニール等でカバーをします。
 7. 外面を柔らかい布で清掃し、湿気が少なく火気のないところに保管してください。

別冊のエンジン取扱説明書も併せてお読みください。

故障と対策

⚠ 注意

- 部品は必ず純正部品をご使用ください。
- 少しでも異常を感じたらそのまま使用せず、点検・修理をしてから使用してください。異常のあるまま使用しないでください。
- 必要以上に分解しないでください。
- 下記表に記載されていない故障等、ご不明な点は販売店にご相談ください。

故障内容	原因	対策
始動しない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料切れ ・ 燃料フィルター目詰まり ・ 始動操作ミス ・ 点火プラグ不良 ・ コイル・イグナイター不良 ・ 気化器不良 ・ ON-OFF スイッチが『OFF』の位置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料補給、交換 ・ 洗浄、交換 ・ P 1 1 を参照 ・ 清掃、交換 ・ 交換※ ・ 清掃、交換※ ・ 『ON』の位置にする
排気音が大きい	<ul style="list-style-type: none"> ・ マフラーのゆるみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増締
スロットルを『閉』にしてもエンジン回転が下がらない	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラッチスプリング折損 ・ 気化器調整不良 ・ スロットルワイヤー調整不良 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交換 ・ P 1 8 を参照して調整 ・ P 1 8 を参照して調整
エンジン回転が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> ・ スロットルワイヤー調節不良 ・ ろ過部目詰まり ・ 排気口、マフラー内カーボン蓄積 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P 1 8 を参照して調整 ・ 清掃、交換 ・ 清掃、交換※
エンジン回転を上げても動かない	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラッチレバーが『切』の位置 ・ マルチシートの引っかかり ・ スプロケットのキーが抜け落ち ・ ウォームギヤの磨耗 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『入』の位置にする ・ 引っかかりを取りのぞいてください ・ 販売店にご相談ください ・ 販売店にご相談ください
作業中エンジン回転が下がり動かなくなる	<ul style="list-style-type: none"> ・ マルチシートの引っかかり ・ 抵抗ローラー部マルチシート通し方は適切ですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引っかかりを取りのぞいてください ・ P 1 2 を参照
クラッチレバーを『切』にしても、巻取り部の回転が止まらない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出力軸の潤滑不足 ・ 出力軸の曲がり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P 2 3 を参照して注油 ・ 販売店にご相談ください

※印の項目は、高度な技術や工具等が必要ですので、販売店に依頼してください。

仕様

名称	マルチ巻取機	
型式名	MHS350E	
機体寸法 全長×全幅×全高	(mm)	1250×730×860
重量	(kg)	60
巻取能力	(m/分)	100 (0.02mm×100m)
エンジン	名称	ホンダGX35 (4サイクル)
	総排気量	(cm ³) 35.8
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	エンジンオイル量	(ℓ) 0.10
	燃料タンク容量	(ℓ) 0.64
	気化器	ダイヤフラム式
	点火方式	トランジスタ式マグネット点火
	点火プラグ	NGK CM5H、CMR5H
	始動方法	リコイルスタータ
停止方法	一次線短絡式	
参考巻取容量	マルチシート 0.02 ^{ミリ} ×1 ^{メートル} ×600 ^{メートル} 0.05 ^{ミリ} ×5.4 ^{メートル} ×50 ^{メートル} 巻取り条件により変化	

製造販売元



株式
会社

岡山農栄社



ホームページ <http://noeisha.co.jp>



本社	〒703-8204 岡山市中区雄町394-3	TEL (086) 279-6100
本社営業所	〒703-8204 岡山市中区雄町394-3	TEL (086) 279-6100
北海道営業所	〒078-8275 旭川市工業団地5条3-3-1	TEL (0166) 36-5115
東北営業所	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町4-2-44	TEL (022) 232-5609
関東営業所	〒372-0023 群馬県伊勢崎市粕川町1616	TEL (0270) 21-8127
九州営業所	〒862-0911 熊本市東区健軍3-45-13	TEL (096) 368-7407

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			

P089-G
0210630